

第93期 報告書

平成22年10月1日から平成23年3月31日まで

トップメッセージ

決算概況と 今後の取組み [»»P1-2](#)

東日本大震災における対応について [»»P7](#)

トピックス

タツヤ・カワゴエ「僕の好きなパスタソース」[»»P8](#)



伊藤忠食品株式会社

証券コード：2692

トップメッセージ



このたびの東日本大震災により被災された皆様に、
心よりお見舞い申し上げます。
「食」のライフルインを担う企業として震災の復興支援とともに
卸機能のさらなる強化を目指します

株主の皆様には、日頃より温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社平成23年3月期(平成22年10月1日から平成23年3月31日まで)の事業概況などをご報告
申し上げます。当期は決算期変更により6ヵ月間の決算となっております。

平成23年6月

代表取締役
社長執行役員

山口泰三

Q

当期(平成23年3月期)の取組みと
経営成績についてご解説ください。
業務改革を強力に推進した結果、
減収ながらも経常利益は半期ベースで
過去最高を達成しました。

当期の国内景況は一部に持ち直しの兆しが見られたものの、依然デフレの影響や雇用状況の厳しさに加え、3月に発生した東日本大震災の影響により、生産活動の低下や個人消費が弱含むなど厳しい経済状況となりました。

食品流通業界でも、消費者の節約志向・生活防衛意識を受け、小売業の業態を超えた価格競争は激しさを増す中、震災後の消費自粛の広がりなどから当社グループを取り巻く経営環境も厳しい状況で推移いたしました。

このような状況下、当社グループは中核事業であるスーパー、コンビニエンスストアなど組織小売業との取引深耕に注力するとともに、新規成長分野での卸機能の開拓、業務オペレーションの標準化・効率化による生産性の向上やコストマネジメントの推進による収益の確保と拡大の出来る経営体質の確立に取組んでまいりました。また、震災後は「食」の

ライフルインを担う責務として、被災地への支援物資の供給、取引先への商品供給の継続や代替品の調達、物流体制の復旧に全社で取組んでまいりました。

当期における売上高は、大手組織小売業との取引拡大があったものの、一部取引先の仕入政策の変更や酒類の売上高減少などにより、前年同期比較1.2% (35億18百万円) 減少の2,866億円となりました。営業利益は、売上総利益の増加と、売上高減少にともなう物流関連費用の減少やコストマネジメントの推進による物流関連コストの改善が図れしたことなどから、販売費及び一般管理費が減少したことにより、前年同期比較11.6% (3億65百万円) 増加の35億10百万円となりました。経常利益は、営業利益の増加に加え、持分法投資損益が改善したことにより前年同期比較26.7% (8億30百万円) 増加の39億42百万円となりました。当期純利益は、経常利益の大幅な増加があったものの、有価証券の減損処理や東日本大震災に関わる費用を特別損失に計上したことなどにより、前年同期比較16億27百万円減少の15百万円となりました。

Q

次期(平成24年3月期)の事業戦略と業績予想についてお聞かせください。

A

引き続き「成長とBPR」をテーマにWEB卸機能の強化などに取組みます。

次期のミッションは当期に引き続き「成長とBPR」としております。当社は2015年の創業130年に向けて「卸機能日本一のグッドカンパニーになる」ことを中期経営計画「NEXT10」にて目標に掲げており、次期はその第2ステージ「卸機能の強化」の締めくくりの年となります。

「成長」に関しては、既存の卸機能の強化はもちろんのこと、高い成長性が期待されるWEBネットワーク分野を積極的に開拓してまいります。メーカーの商品情報をデジタル化した「デジタル商品データベース」を構築し、大手小売業やECマース事業者、消費者との取引を広げていくというのが基本的な戦略です。次期の具体的な取り組みとしては、グルメギフトを中心としたBtoCサイト「食べモール」の機能強化や、5月に開設した新製品に特化した投稿&レビューサイト

● 次期の注力テーマ ●

営業戦略

- 成長性・安全性・収益性の高い企業との取引拡大
- 不採算取引の改善による赤字取引撲滅
- 最適なポートフォリオの構築（販売先・仕入先・業務）

新規成長戦略

- WEB卸機能の確立と取引拡大
- 新機能の開拓と新収入源の獲得

成長とBPR

質的向上

- BPRの実行と業務オペレーション精度の向上
- 物流コストの削減
- 次世代情報システム化の推進

基本政策

- プロフェッショナル集団の育成
- CSR・コンプライアンスの遵守

「新製品 databook」などを推進してまいります。

「BPR (Business Process Re-engineering)」は、業務オペレーションの標準化・効率化による生産性の向上を目指すもので、すでにこれまでの取組みによって大きな効果が上がっております。受発注業務を例に取りますと、各部内で行っていた受発注業務を新設した業務部に集約することで、人員を14%、過剰在庫金額を25%削減することに成功し、在庫回転日数は10.5日から9.4日へと改善しております。こうした質的向上への取り組みは次期以降も継続してまいります。また物流コストの削減、首都圏物流センターの統合などの合理化を予定しています。

次期の連結業績については別表の通り予想しております。

● 連結業績予想 ● (単位：百万円)

次期予想 (H23.4.1～H24.3.31)		
売上高	営業利益	当期純利益
595,500	6,400	7,200
		4,300

Q

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

次期年間配当金については、64円を予定しております。

当期末の配当金は1株当たり32円とさせていただきました。次期につきましては中間および期末でそれぞれ1株当たり32円とし、年間配当金で64円を予想しております。

当社グループは「卸機能日本一のグッドカンパニー」をビジョンに掲げ、「卸機能の質的向上」と「新たな付加価値の創造」に取組み、収益の確保と拡大のできる分野へ経営資源を集中することで、なお一層の営業基盤の拡充を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

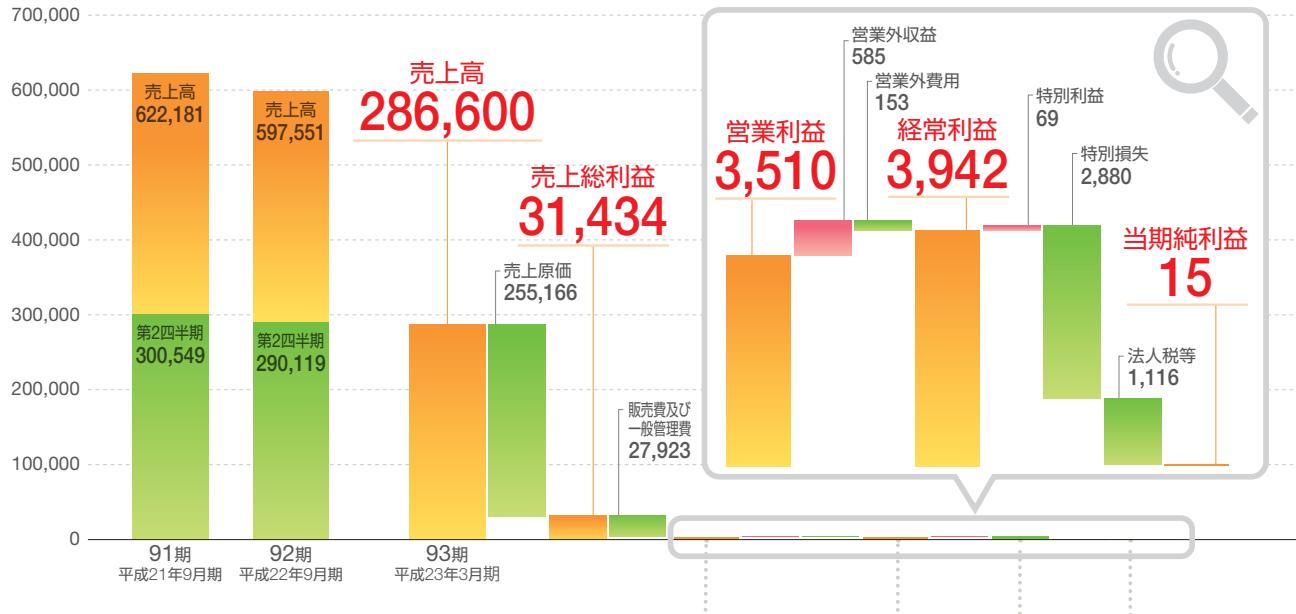
連結決算の概要

■ 連結業績ハイライト（単位:百万円）

*当連結会計年度は決算期の変更により6ヶ月間の決算となっております。比較の参考

として、92期以前の数値については、第2四半期の売上高も記載しております。

*百万円未満は切り捨てて表示しております。



売上高

大手組織小売業との取引拡大があったものの、一部取引先の仕入政策の変更や酒類の売上高減少などにより2,866億円となりました。

経常利益

売上総利益の増加と、売上高減少に伴う物流関連費用の減少やコストマネジメントの推進による物流関連コストの改善が図れしたことなどから、販売費及び一般管理費が減少し営業利益が増加した事で、経常利益は39億42百万円となりました。

特別損失

当初計画に織り込んでおりました、有価証券の減損処理や、東日本大震災に伴う損失の計上などにより、特別損失は28億80百万円となりました。

当期純利益

経常利益で、過去最高益(半期ベース)を達成したものの特別損失の計上により当期純利益は15百万円となりました。

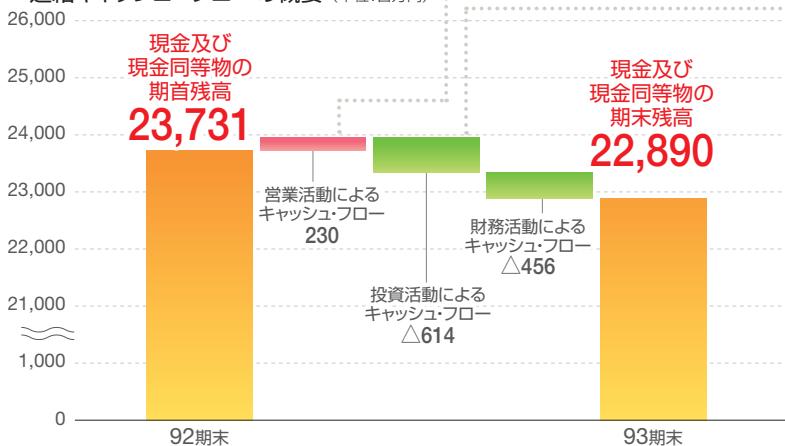
Consolidated Financial Statements

■ 連結貸借対照表 (単位:百万円)

250,000



■ 連結キャッシュ・フローの概要 (単位:百万円)



総資産は1,653億74百万円となりました。これは当連結会計年度の末日が9月30日から3月31日に変更したことによる季節変動要因から、売上債権など流動資産が94億19百万円減少したこと、また有形固定資産が9億44百万円減少したことによるものです。

負債は1,079億90百万円となり、前期末より110億28百万円減少いたしました。これは季節変動要因により仕入債務など流動負債が120億13百万円減少したことによるものです。

純資産は573億84百万円となり前期末と比べ7億97百万円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果増加した資金は、2億30百万円となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益11億31百万円と季節変動要因による債権債務残高の減少による増減によるものです。

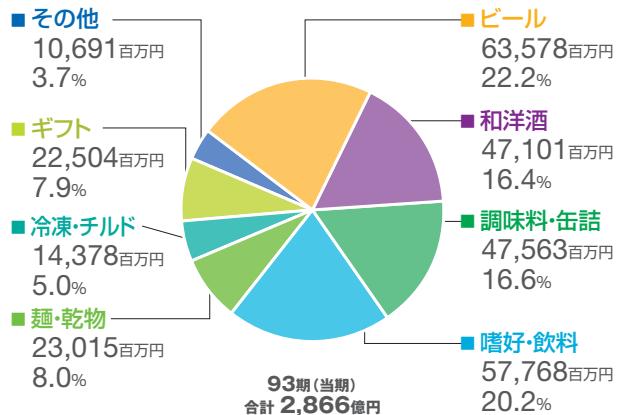
投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、6億14百万円となりました。主な要因は、子会社株式の売却による連結範囲からの除外によるものです。

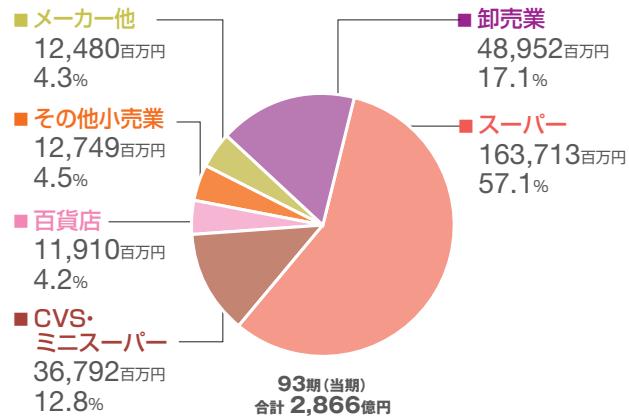
連結決算の概要

Consolidated Financial Statements

■商品分類別売上高構成比



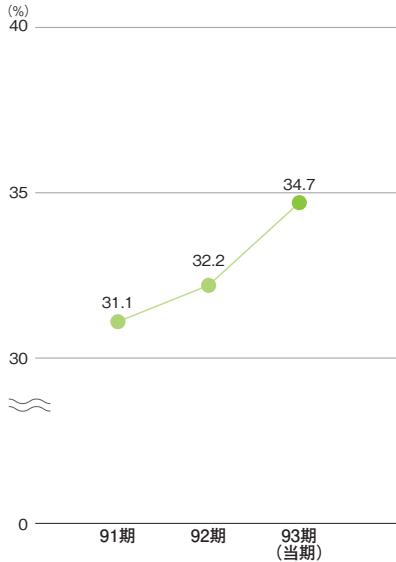
■業態別売上高構成比



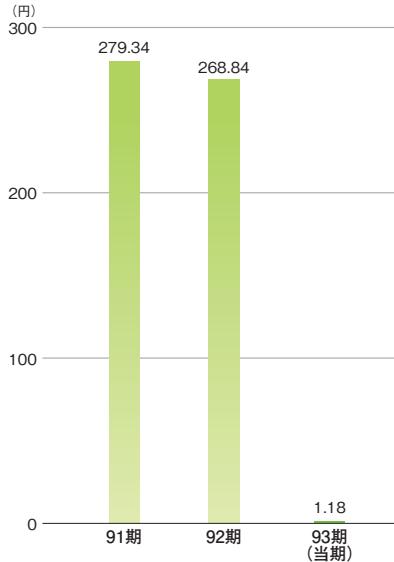
(注)「ビール」には、発泡酒、ビール風アルコール飲料(第3のビール)の売上高を含んでおります。

■参考指標

●自己資本比率●



●1株当たり当期純利益●



●1株当たり純資産●



個別決算の概要

Non-Consolidated Financial Statements

※当会計年度は決算期の変更により6ヶ月間決算となっております。

■貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期 平成23年3月31日	前 期 平成22年9月30日
● 資産の部		
流動資産	115,263	123,629
固定資産	49,843	50,370
資産合計	165,107	174,000
● 負債の部		
流動負債	104,442	115,228
固定負債	3,658	2,426
負債合計	108,100	117,654
● 純資産の部		
株主資本	55,030	55,574
資本金	4,923	4,923
資本剰余金	7,162	7,162
利益剰余金	43,528	44,071
自己株式	△ 583	△ 582
評価・換算差額等	1,975	771
純資産合計	57,006	56,346
負債純資産合計	165,107	174,000

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

■損益計算書

(単位:百万円)

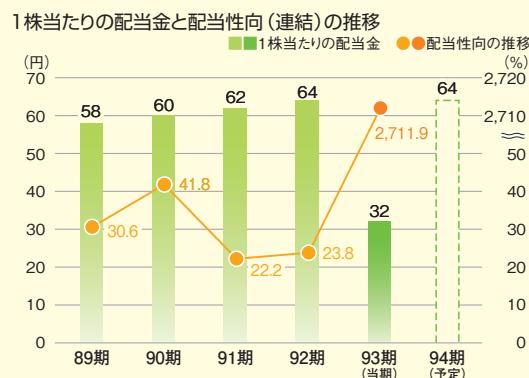
科 目	当 期 平成22年10月1日から 平成23年3月31日まで	前 期 平成21年10月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	282,852	590,274
売上原価	252,207	528,702
売上総利益	30,644	61,572
販売費及び一般管理費	27,213	55,762
営業利益	3,431	5,809
営業外収益	563	1,169
営業外費用	174	396
経常利益	3,819	6,582
特別利益	70	420
特別損失	2,939	2,020
税引前当期純利益	950	4,982
法人税、住民税及び事業税	1,013	1,887
法人税等調整額	69	24
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 132	3,070

※百万円未満は切り捨てて表示しております。

■利益配分に関する基本方針

当社グループは株主の皆様への利益還元を最重要政策と認識し、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、株主の皆様への利益配分拡大に努力することを基本方針としております。

当期は決算期変更により6ヶ月決算となることから、配当金につきましては、上記の方針ならびに当連結会計年度の業績を鑑み、1株当たり32円とさせていただきます。内部留保金の使途につきましては、財務体質の強化ならびに営業力強化のため新たな卸売業のビジネスモデル確立への投資とシステム開発などの資金需要に備える所存であります。また、次期の配当金につきましては1株当たり64円を予定しております。



東日本大震災における対応について

▶ 被害状況

当社グループでは、幸い人的被害は免れましたが仙台支店や東北地方の物流センター及び首都圏センターの一部が被災いたしました。

常温統合仙台物流センターは、1階が津波により浸水し、配送トラックも流されました。5月下旬には再稼働いたしました。引き続き完全復旧に向け、取組んでまいります。

仙台支店および仙台物流センターは地震の影響により、建物の外壁、倉庫内のラック（商品保管棚）や在庫商品などが破損致しました。別棟のスペースを使用し出荷対応しており、現在復旧に向け、作業を進めています。

首都圏の物流センターも在庫商品やラックの破損などがありました。早期に復旧しております。

尚、震災による当期の損失は5億39百万円となっております。

▶ 被災時対応

当社グループは食のライフラインを担う企業の責務として、被災地への支援物資の供給、取引先への商品供給の継続や代替品の調達、物流体制の復旧に全社で取組んでまいりました。

また、二次災害の影響を考慮し、東京本社の一部機能を大阪本社に移転するなど、業務継続体制を一時、実施いたしました。

▶ 義援金

当社グループは東日本大震災の被害に対し被災地の皆様の救援や復興に少しでもお役立てていただき、（社）日本加工食品卸協会を通じ日本赤十字社に2,000万円を寄付いたしました。また、社内におきましても、従業員・役員からの義援金募集を実施しております。日本赤十字社へお届けすることになっております。

■ 東北地方の当社物流拠点



TOPICS



タツヤ・カワゴエ「僕の好きなパスタソース」

当社は、知名度の高い外食店舗や老舗名店などの人気メニューを冷凍食品や加工食品として、そのお店のブランドで商品化しています。今回はテレビや雑誌などで活躍中の、東京・代官山のイタリアンレストラン「タツヤ・カワゴエ」オーナーシェフ川越達也氏がプロデュースした「僕の好きなパスタソース」をご紹介します。

パスタソースは、トマトソースと、ごぼう風味のミートソースの2種類です。「トマトソース」は、イタリア産トマトをたっぷり使った甘味と酸味がインパクトのある自信作です。「ミートソース」は、ごぼう風味と食感がアクセントのコクのある至極の一品です。どちらも順調に売上を伸ばし、今年2月の販売から3ヶ月間で計75万個販売する大ヒット商品です。



トマトソース



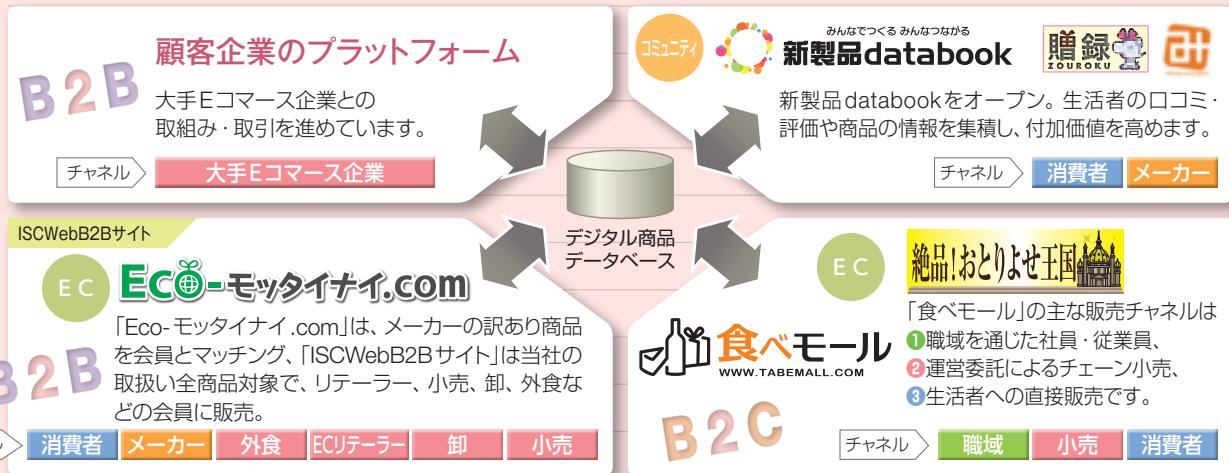
ミートソース

今回、ご紹介したタツヤ・カワゴエの「僕の好きなパスタソース」は、こちらのサイトから購入出来ます。

<http://item.rakuten.co.jp/otoking/tk0011/>

WEBビジネス、続々と登場。

「デジタル商品データベース」を構築し、デジタル化した商品情報の登録を進めております。これによりECリテラー、小売業や生活者とデジタルコミュニケーションする環境が整いました。今後は各チャネルの取引先との取組みを深耕してまいります。



商 号 伊藤忠食品株式会社

創業年月日 明治19年2月11日(1886年2月11日)

設立年月日 大正7年11月29日(1918年11月29日)

資 本 金 4,923,464,500円

従 業 員 数 連結1,079名 個別798名

事 業 内 容 酒類・食品の卸売およびそれに伴う商品の保管、運送ならびに各種商品の情報提供、商品流通に関するマーチャンダイジング等を主とした事業活動を展開。

本店所在地 大阪市中央区城見2-2-22

大阪本社

〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22

電話(06)6947-9811

東京本社

〒103-8320 東京都中央区日本橋室町3-3-9

電話(03)3270-7620

子会社・関連会社

卸売業

- (株)中部メイカン
- 力ネトミ商事(株)
- (株)スハラ食品

小売業

- (株)宝来商店

物流管理・運送業

- 新日本流通サービス(株)
- (株)東名配送センター

サービス業

- ISCビジネスサポート(株)
- (株)アイ・エム・シー

■連結子会社 ■非連結子会社 ■関連会社

役員

(平成23年6月22日 取締役会終了時より、下記の新体制となりました。)

代表取締役 社長執行役員 濱口 泰三

代表取締役 副社長執行役員 星 秀一

取締役 専務執行役員 岩城 彰

取締役 専務執行役員 足立 誠

取締役 専務執行役員 栗山 勝之

取締役 専務執行役員 佐藤 進

取締役 常務執行役員 柏沼 康夫

取締役(非常勤) 亀岡 正彦

常勤監査役 長谷 茂

監査役(非常勤) 増岡 研介

監査役(非常勤) 末田 雅己

監査役(非常勤) 山中 裕史

常務執行役員 黒田 敦章

常務執行役員 大釜 賢一

常務執行役員 小嶋 一郎

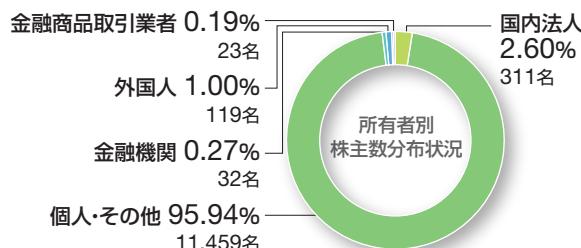
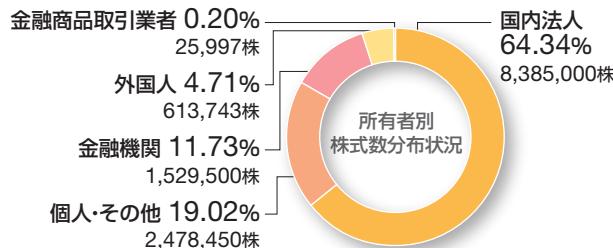
執行役員 勝山 元春

執行役員 小池 俊一

執行役員 阿部 淳一

執行役員 松本 耕一

発行可能株式総数	40,000,000株
発行済株式の総数	13,032,690株
株主数	11,944名



大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数比率(%)
伊藤忠商事(株)	6,219,316	47.72
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (住友信託銀行再信託分・アサヒビール株退職給付信託口)	690,000	5.29
アサヒビール(株)	421,500	3.23
株日本アクセス	400,000	3.07
味の素(株)	339,129	2.60
松下 善四郎	302,000	2.32
みずほ信託銀行(株)退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)	236,835	1.82
伊藤忠食品 従業員持株会	174,100	1.34
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	134,500	1.03
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	99,500	0.76

(注)1 上記のほか、自己株式が194,378株あります。

2 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(住友信託銀行再信託分・アサヒビール株退職給付信託口)の所有株式は、アサヒビール㈱が所有していた当社株式を住友信託銀行(株)に信託したもののが、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権はアサヒビール㈱に留保されております。

3 みずほ信託銀行(株)退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)の所有株式は、㈱みずほ銀行が所有していた当社株式をみずほ信託銀行(株)に信託したもののが、資産管理サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権は㈱みずほ銀行に留保されております。

当社の株主優待について

当社では、株主の皆様に当社をより身近に感じていただくために、単元株式数(100株)以上保有の株主様1名につき1口、当社オリジナルギフト商品をご賞味いただける株主優待を行っております。この株主優待は、**約30種類の厳選された商品**の中からお好きな品をお選びいただけるギフト「**ちょいすdeチョイス**」(3,000円相当)です。決算期の9月期から3月期への変更に伴い、今回からお届けのスケジュールが変更になりました。

ちょいすdeチョイス



Stockholder Memo

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基 準 日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公 告 方 法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
※公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.itchu-shokuhin.com/>

単元株式数 100株

証券コード 2692

※下記記載の事業年度の変更に準じております。

INFORMATION

ご案内

決算期変更のお知らせ

平成22年12月16日開催の定時株主総会において、事業年度を従来の10月1日から翌年9月30日までとしていたものから、4月1日から翌年3月31日までと変更いたしました。これに伴う経過措置いたしまして、第93期の事業年度は平成22年10月1日から平成23年3月31までの6ヶ月間です。

住所変更、
単元未満株式の
買取等のお申出先

証券会社に口座のある株主様

▶ 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

証券会社に口座がないため
特別口座が開設されました株主様

▶ 特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金のお支払い」
について

配当金領収証にてお受取りの
株主様

▶ 「支払通知書」に替えて「配当金計算書」を同封いたしております。

口座振込を指定されている株主様

▶ 配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支

「配当金計算書」について
※確定申告をなされる株主様は
大切に保管してください。

配当金支払の際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねてあります。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

未払配当金の支払いの
お申出先

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

ISC 伊藤忠食品株式会社

お問い合わせ

- 大阪本社 〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22 電話 (06)6947-9811
- 東京本社 〒103-8320 東京都中央区日本橋室町3-3-9 電話 (03)3270-7620
- インターネットホームページURL <http://www.itchu-shokuhin.com/>



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022915



本報告書は、環境保全のため、FSC™認証紙を使用して植物油インクで印刷しています。